

## 第2章 水 質

### 第1節 序 説

本県における公共用水域として、河川は、北部には北上山地から南流する北上川とその支川の江合川、迫川などがあり、中央部には奥羽山脈から東流する名取川、鳴瀬川などがあり、南部には阿武隈山地から東流する阿武隈川があり、いずれも太平洋に注いでいる。湖沼は、白鳥、ガン、カモなどの飛来がみられる伊豆沼、長沼などの天然湖沼と、釜房ダム、鳴子ダムなどの人工湖がある。海域は、全国でも有数の好漁場となっており、北部は、リアス式海岸を利用した気仙沼、女川などの良港を形成し、中央部は、仙台湾地区新産業都市の中核となる仙台港、石巻工業港があり、石油精製、火力発電、金属機械、紙・パルプ等を中心とする工業地帯を形成し、南部は砂浜と松林が続くなだらかな海岸線を形成している。

これら公共用水域の水質保全を図るため、環境基準の類型指定を行い、定期的な水質監視及び自動測定局による監視測定を行っている。また、発生源対策としては、水質汚濁防止法による規制、同法による特別排水基準の設定、県公害防止条例による規制、企業との公害防止協定の締結などにより対処するとともに、流域下水道及び公共下水道の整備、拡充により、水質汚濁の防止を図ってきた。

しかしながら、一部の閉鎖性水域において富栄養化現象がみられ、また、都市貫流河川では、一部を除き水質汚濁の進行がみられること、今後とも産業活動の活発化、人口の増加、都市化の進行などにより、工場、事業場排水、生活排水などの増大に伴う汚濁負荷量の増加が予想されることから、河川などへ流入する汚濁負荷量をその水域の持つ浄化能力以下に保持していくことが必要となる。このため、本計画においては、各水域ごとに環境保全水準を定め、広域的、総合的かつ計画的に水質の環境管理を行うこととする。